

## はじめに

さわやか福祉財団は、新しいふれあい社会の創造を目的に活動を展開している財団です。新しいふれあい社会とは、子どもから高齢者にいたるまで、すべての人々が個人の尊厳を保ちながら、心豊かに人生を送る社会のことです。

当財団では、この新しいふれあい社会づくりのために、これまで子どもたちに対しては心豊かで生きる力を持った社会人に成長してもらうことを期待して、社会貢献教育を提唱し、ボランティア体験学習を通じた人間力（自助と共助の力）の育成を推進してきました。そして、更に積極的に学校教育の中で直接的に子どもたちへ働きかけることを目指して、「総合的な学習の時間」の導入を主張し、実現してきました。

しかし、2003年のOECDによる生徒の学習到達度調査（PISA）に端を発した学力低下問題によって、2005年当初に「総合的な学習の時間」の削減案がにわかに浮上しました。さわやか福祉財団では、「総合的な学習の時間」の削減に反対の立場から、「総合的な学習の時間」存続のために2005年6月に「総合的な学習の創造的な展開を推進する会」を結成し、以下の活動を展開してきました。

（メンバー）小山内 美恵子氏（脚本家、NPO法人JHP・学校をつくる会代表）

嶋野 道弘氏（日本生活科総合的学習教育学会会長、地域に根ざした食農教育ネットワーク代表委員、文教大学教授）

牟田 悌三氏（俳優、社会福祉法人世田谷ボランティア協会名誉理事長、NPO法人チャイルドライン支援センター代表理事）

堀田 力（さわやか福祉財団理事長）

2005年8月7日 「総合的な学習を推進する緊急シンポジウム」開催

「総合的な学習の創造的な展開を進める緊急アピール」発表

同年9月21日 中央教育審議会専門部会及び教育課程部会委員に緊急アピール文提出

2006年3月9日 「『総合的な学習の時間』の授業時数確保についての要望書」提出

同年8月2日 ネットワークによる「総合的な学習の時間」シンポジウム開催

同年10月 政府の「教育再生会議」設置を機に、「総合的な学習の創造的な展開を推進する会」を発展させ、「教育再生民間会議」に移行

2007年1月24日 「教育再生会議」の第一次報告の政府提出に合わせ、「教育再生民間会議の提言を記者発表

同年6月22日 「総合的な学習の時間の充実を求める「教育再生民間会議」提言を文部科学省及び中央教育審議会教育課程部会委員に提出

しかし、社会の情勢は長期の経済不況の中にあつて知識教育へと舵取りがなされ、中央教育審議会は2008年3月「総合的な学習の時間」を縮減した新学習指導要領を公示しました。そこで、これを契機にこれからは「総合的な学習の時間」の質の充実を図ることが大切であると判断するとともに、「総合的な学習の時間」に真摯に取り組んでおられる教師の皆さんにエールを送ることを目的として、今回「総合的な学習の時間支援シンポジウム」を当財団が主催しました。

この報告書は、「総合的な学習の時間」で学んだ子どもたちが日本の社会を変えていくであろうという確信をいだかせる内容となっています。子どもの教育に携わる全ての皆様にぜひご覧いただき、「総合的な学習の時間」によって子どもたちが生きる力を備え、よりよい社会人になるよう、積極的に取り組みいただきますようお願い申し上げます。

（財）さわやか福祉財団

総合的な学習の時間支援プロジェクト